

映画、アニメ、マンガに生かされるIT技術も披露

ウェアラブルPCが起ります
ファッション革命!?



◆ウェアラブル向けディスプレイは、パイオニア製の有機ELディスプレイを採用している。



◆上着の袖に有機ELディスプレイを内蔵。フィルム基板を採用し、シワなどの形状変化にも耐えるような構造を目指している。



◆両耳用イヤホンも一体化したヘッドマウントディスプレイ。



◆目にした物などをキャプチャーし続け、もの忘れ防止に役立つ「I'm here」という装置。



◆PDAやバッテリーなどモバイル機器を収納できる「ウェアラブル用ベスト」。



◆会場ではサイブナーのウェアラブルPCも多数利用されていた。

情報処理学会に登場した
異色のトピックとは

情報処理学会は、日本のIT界を支える国内最大の研究学会。研究者や技術者が集まる学会という堅いイメージがつきまとうが、意外にも同学会は、文化や芸術、エンターテインメントや流行との結びつきもあるようだ。

情報処理学会は3月25、27日、日本中のIT技術者、研究者を集めて、東京で全国大会を開催。なかでも、注目を集めたのがウェアラブルコンピューティングに関するイベントだった。

ウェアラブル部門では、「ウェアラブルコンピューティングによる文化・ファッション大革命」と題するパネルディスカッションを開催。パネラーとして、ミュージシャンのサエキけんぞう氏のほか、ファッション関係者らが参加してディスカッションをくり広げ、ウェアラブル

PCのファッション性や、カッコよさ、必要とされる機能などの意見交換が行なわれた。

「今のウェアラブル機器はハード面にはかなり注目が集まっているが、もっと身に付けたときのカッコよさが必要」「機能を重視しすぎるとカッコ悪くなる」など、IT技術者らには耳の痛い意見もあったが、ファッション性を重視しすぎると、機能が損なわれるという指摘も。ウェアラブルPCが一般化するには、もう少し時間がかかりそうだ。

また情報処理学会では今回、初めての試みとして、映画やアニメ、マンガ界の著名なゲストを招いて講演を開催。これをきっかけに同学会は、今後も文化・芸術界と積極的に交流をはかっていき、さまざまな分野で生かされるIT関連技術の開発、発展を目指していきたいとしている。

●社団法人情報処理学会
<http://www.isfdp.or.jp/>



◆「映画・アニメが進化する—デジタルで変わる映像表現の世界」という講演に映画作家・篠田正浩氏(左上)、マンガ作家・モンキー・パンチ氏(右上)、アニメ作家・りんたろう氏(左下)が登場。



◆映画「メトロポリス」などを題材に、映像製作に用いられているデジタル処理技術を解説。